

# 第1回アマ銀河戦優勝自戦記

## (全国CATV局選抜将棋選手権) 辻 清治

### ♪はじめに

この自戦記は2012年の竜棋会(菅井プロの後援会)会報に掲載させて頂いたものです。今回OB会HPへの投稿要請があり、少しだけ焼直しの上、転載させて頂きました。OB会の原稿に自己紹介があるのは不自然かもしれませんが、年齢幅が広がって来ましたのでこのまま残しておく意味もあるかな…と。(“はじめに”と“後書き”は2014年9月記。それ以外は2011年12月作成。将棋としては第5図と第7図が考え応えのある局面。長考をお勧めします(笑))

### ♪自己紹介 その1 ～将棋との関わり～

私は昭和25年大阪生まれの61才、平成元年より兵庫県在住。将棋を覚えたのは小二の頃。本格的な将棋に接したのは遅く18才の夏。そこからのめり込み、部室にあった技術書と10年?分位の月刊誌(将棋世界、近代将棋)全冊を半年余りで読み切った。それで出来上がったのは序盤派ながら力のない先行逃げ切りタイプの棋風。今となっては“元序盤派”と言っても(いつも力戦形で戦っている)誰も信じてくれません(笑)。定年退職後、公認将棋指導員資格をとり、現在は関西将棋会館で週二時間講義を受け持っています。

### ♪自己紹介 その2 ～主な棋暦(自己PR?自慢?? ご容赦!)～

平成アマ最強戦優勝(平成3年) / 読売日本一決定戦3位(昭和62年) / 全日本レーティング選手権 Best 4 × 3回(平成6, 8, 11年)が主な棋暦。他には、朝日アマ / アマ王将の Best 8 と支部名人戦西日本大会 Best 4 × 2回などで、県代表以上約25回。中でも瞬間風速ですが、上記の平成アマ最強戦での“日本一”は将棋に真摯に接したご褒美として神様から頂いた大変嬉しい贈り物。

団戦では、平成15年秋NEC将棋部(長岡俊勝・加藤徹・瀬川晶司・林隆弘・清水上徹が主力)職団戦S級初優勝にほんの少しだけ貢献(笑)。西日本職団戦では、メンバーは異なるが平成9～13年NECグループでA級5連覇この時は柿本雅之さん(現広島在住)と私が主力だったと自負。5年間全31局で二人とも30勝1敗。チームは勿論、私は個人も31戦全勝で終えるつもりでいたが、5年目の決勝で敗れたのは個人的には悔しい思い出。しかし勝者に大変喜んで貰っていると伝え聞き(苦笑)、今ではこちらも楽しい思い出に…。

### ♪全国CATV局選抜将棋選手権大会 ～棋戦概要～

全国CATV局選抜将棋選手権って何?と思われる方に簡単に棋戦の説明を…(注:私なりの理解なので間違いがあるかもしれませんが…)

本大会は今年生まれたアマ棋戦で、賛同する各地域のCATV(ケーブルテレビ)局が各地方予選を主催し、プロの銀河戦やアマ王将戦を主催する囲碁将棋チャンネルが各地方予選の優勝者を集めた全国大会を主催するという仕組みで行われています。今年の参加CATV局は第1回ということもあり10局と“全国”の冠を付けるにはやや少ない局数ですが、先行している囲碁(今年第10回を開催)を見ると全国139局が参加し107の地方大会が行われている様なので、将棋についても来年以降参加CATV局の急速且つ大幅な増大が期待出来ます。また全国大会の一部(今回は決勝を除く全局)がネット上で行われる点もユニークで、今後この方式を用いるアマ棋戦が増えるだろうと予想します。

### ♪自戦記 ～兵庫県予選 BANBAN-TV杯～

兵庫県予選は10/15に行われ、A級は57名参加。山口直哉アマ王将や既に王将戦全国大会の切符を手に入れている方の参加はなかったが、それ以外では

兵庫トップクラスの7～8割方はいたように思う。予選はスイス方式で4対局4連勝者3人で決勝トーナメント。私は損番を引いたので2局指すことに。相手は若手ふたり（大学1年と中学生）。これは最近の兵庫アマ棋界の特徴。小学生～高校生の台頭著しく、どの大会でも上位の1/3～半数近くに及んで来ていると感じる。井上一門の方々を始め、普及を図り且つ本物の技術も教える方の努力がこの状況を生んでいるのではないか…（勿論その周囲を固める方々の努力も忘れてはならない）。年々全国大会への道が厳しく感じられる様になっただベテラン（笑）としては、大幅に負け越している若手も多く「勘弁してくれる…」と言いたくなる時もあるが、意外にも心の一部では層の厚さを喜んでいる自分より数段筋の良い指し手に出会おうと、言わば“孫馬鹿”的な感情にもなる（笑）。出身地である大阪から移って来て23年、私にも兵庫への郷土愛が生まれているということかもしれない。

今回は準決勝も決勝も“序盤：相手の判断誤りで優勢に、中盤：安全勝ちを目指した方針がまず甘い手連発、終盤：追い込まれるも序盤の貯金でなんとかゴールに”という昔に帰ったような展開。毎局終了後は息を切らしながら苦笑いと反省の連続。「勝てて良かった…」

### ♪自戦記 ～本戦2回戦～

本戦は各CATV局代表10名でのトーナメント。私は得番で最初からBest 8の位置。この大会に参加する当初の目的だった“アマ王将戦全国大会代表権獲得”にはあと1勝。1週間前には出場者のお名前が分かったので、当然ネットで対戦相手の情報を探す。「棋暦が分かれば凡その実力が推定出来る。序盤の戦法選択傾向や棋風が分かれば有難く、棋譜があれば尚有難い」の気持ち。

まず当たる久保田豊さん（岐阜）については“私より年長。シニア名人戦の常連で上位実績もある”ということには分かったが、戦法選択傾向と棋風に関する情報は見付けられなかった。ここで「まあ仕方ない。棋暦から判断すると私の方が強いはず」と思ったのが大きな間違い。本大会の予選から決勝までの全10局の中で唯一完全に観念するところまで追い詰められた一局となった。

第1図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	皇			雫					龍	一
		王	龍			雫				二
		歩			歩	歩	歩	歩		三
		歩		歩	歩		龍	龍	歩	四
		歩				皇			歩	五
		歩			銀		歩		歩	六
△		歩		香	歩					七
			玉	金	金		銀	角		八
▽	香	桂						桂	香	九

▲久保なし

第2図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	皇			雫					龍	一
		王	龍		雫					二
		歩			歩			歩		三
		歩		歩	歩			龍	歩	四
		歩		銀	歩		皇	龍		五
		歩	歩			桂	歩		歩	六
			玉	香	歩		角			七
					金		銀			八
▽	香	桂							香	九

▲久保桂歩四

本戦の持時間は全て15分で秒読み1分。年齢を重ねる都度読みの速度は低下し、1手30秒では発狂の手が何度も出る（苦笑）。しかし1分あればなんとか局面に付いて行けるはず。その点では気が楽だった。

序盤、玉頭位取り対石田流の形に。「そう言えば久保田さんは年齢的に玉頭位取り世代だ」と気付いたがもう遅い。私の安易な（恥ずかしい程超々安易な）仕掛けを咎め、位と駒得を生かす柔らかい指し回し。私も久保田さんのような指し回しが好みなので、何度「相手側に回りたい」と思ったことか…（苦笑）。

第1図は小差の局面で耐えることが出来ず必敗形になったところ。私は持時間もなくなり、自陣の傷は見ないでおこうと開き直っていた。図で▲4六角なら△6七角成▲同金（直でも右でも）△4六龍しかなく、そこで▲6三歩成なら何手負けているのか考えたくもない局面だった。久保田さんももっと小差な

ら鋭く寄せる順を選んだと思うが、相手の（私のことです）あまりの弱さにあきれ、自陣に手も付けさせずに勝とうとされたように思う。そこにこちらの唯一のチャンスが隠れていた。

第2図は、▲5六桂と後手の角筋を止めながら龍を追い△3五龍と逃げた所。ここで▲8五歩と桂を取ったのが次の手をうっかりした緩手。△3七龍▲同銀△6九角▲7六玉△5八角成と進んでは攻守が逆転した印象があり、実際にはまだ難しい局面ながら動揺があったのではないか…。次の▲4一飛が重ねての緩手で、△5四角が△6六歩からの詰めろとなり逆転した。終局後の私のチャット第一声が「すみません。完敗の将棋でした」。これは本音の言葉だった。

♪自戦記 ～準決勝～

準決勝は小野友慈さん（静岡）と。彼とは、彼が京大時代の2年前に団体戦で1度対戦経験があり私の負け。記憶がやや不鮮明になっているが“オーソドックスな将棋”という印象だった。今回の戦形は小野さんの石田流に私は棒金。玉の囲いが薄くなることが多いので使わない人も多いが、私にとっては好きな戦形で、吉田義雄（大阪）さんなど三間飛車の使い手との対戦経験の多い戦形でもある。但し、棒金側は一手間違っただけで勝負が終わるので、そこだけはいつも怖い。棒金側に高リスクがある戦形だ。

第3図は、棒金に久保流の金上がりで対抗した先手に4筋位取りで対抗した後手、その後第2次駒組みから▲6五歩と仕掛けられて数手進んだ局面。仕掛け直前に寄った△3一金と、この怖い局面で指した△8六歩が自慢の手で、ここではほぼ互角と思う。居飛車としては何があっても文句は言えないが、まあ私の将棋らしい個性の出た局面。

第3図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	香	桂					王		香	一
		▲				▲	王			二
	▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	三
										四
	▲	▲	▲	▲	▲					五
▲	▲								▲	六
		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲		七
			▲			▲	▲	▲		八
▲						▲	▲	▲	▲	九

第4図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	香	桂					王		香	一
							王			二
	▲		▲	▲			▲	▲	▲	三
										四
	▲		▲	▲			▲			五
▲	▲								▲	六
		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲		七
			▲			▲	▲	▲		八
▲						▲	▲	▲	▲	九

第3図から△8六歩に、先手は▲5四金以下6五の金を4三の銀と交換した後、飛角をたたき切って第4図に。後手にとり金気の持駒がないことが不安。そこを突く▲4四金が怖い手だ。次の▲4三金打が必殺打になる。▲4四金に適切な受けがあるのか？が勝負処だと数手前から思っていた。私の読みは「▲4四金に△4一飛と受け、以下▲4三金打△同飛▲同金△同王▲6一飛△4一角▲8七歩△同飛成▲4一飛成△同金▲6五角△5四角▲8七角△同角成▲8二飛に△7七馬でぎりぎり受かる」だった。読みの途中、何か見落としている変化がありそうで正直怖かったが、自分の読みを信じてこの順に飛び込むつもりだった。

本譜は第4図で▲6五桂と攻めの厚みを加えて来たが、それには△3五角が5七の銀取りで且つ▲5三桂成を消しながら、さらに4四に金気を打つ筋も消している一石三鳥の切り返しで、こちらが良くなった。以下、▲4六歩△6九飛▲6六歩△8八飛成▲5八歩△9九龍と手順に後手の攻め駒が働いて来ては差が付いた。さらに▲3六歩△4四角▲5三金に今取ったばかりの△4一香の受けがぴったり。▲6三金と銀を取る手に、△4六歩▲5六銀を利かしてから△1五歩が必殺打。勝ちを確信した。以下形作りの▲5三桂不成△1六歩▲

4 一桂成△同金▲4五香に△1七歩成以下は即詰みだ。

王将戦の代表権獲得という目標を達成し大満足。「決勝は1週間後の日曜に東京で…」というすぐ先の日程にも、時間に余裕のある定年退職者の身としてはニコニコして了承。当日は第100回職団戦（於：東京体育館）の開催日でもあり、元チームメイトの応援や祝賀会にも行けそうな最高の日程だった（笑）

### ♪決勝 対局日前の1週間

決勝の相手は“生川（なるかわ）康太郎”さん。名前に全く記憶はなかった無名、しかし岡田和樹さんを倒して決勝まで来る相手、弱い訳がない。本当はどの程度なのか？翌日すぐ将棋倶楽部24上に残っている生川さんの棋譜を2局並べてみた。その棋譜では（自分のことを棚に上げると）岡田さんや沖縄代表の桑江さんの指し手にもミスがあり、結局どの程度強いのか判断がつかなかった。知り合いに問うと「康太郎君は小学6年生で、先月の正棋会に来ていた」との情報が入る。「小学生なら余程の逸材でない限り、今の間だけは（笑）私の方が強いはず」とも思ったが、「油断せず得られる情報は出来るだけ得よう最善を尽くそう」と考え、正棋会の成績表から調べた対戦相手に戦法や棋風を問い合わせる。「居飛車で対振飛車には左美濃」との先日の2局と同じ戦形以外に、“僕には▲7六歩△3四歩▲7五歩から石田流だった”との情報も。

対戦日が近付くにつれ余計なことが頭をよぎる。「子供には負けたくない」・「子供には負けられない」・「自分の方が実力上位だろう。こんな絶好のチャンスは二度とないぞ…」等々。最初の言葉は正直まだいい。ただ後ろの言葉に行けば行くほど確証のないものを頼りに自分を鼓舞しようとしており、自分の自信のなさを表しているに過ぎないフレーズだ。精神的なプレッシャーが高まる。

### ♪決勝 対局日当日

集合時刻より大幅に早く着く。先に行われるジュニア（Jr）王将戦の様子を見て自分の対局に役立てようとの意図。囲碁将棋チャンネルの本棋戦担当の田中誠さんを始め皆さんに親切にして頂け、少しはリラックス。丁度Jr王将戦が始まる前だったので同じ兵庫のBAN-BANテレビ代表の宮本光一君と会え、エールも送れた。控え室でJr王将のもうひとりの決勝進出者納谷瑛志君（秋田）のお父様や宮本君のお母様とスタジオの様子を撮っているモニターを見ながら言葉を交わす。将棋は流石と言える内容。CATV選手権出場者のレベルと殆ど変わらない。私が見えていない好手もどんどん盤上に飛び交う。そうこうしている内に生川君とお父様が到着され、また皆で親しく話す。皆さん人当たりが柔らかく、雰囲気の良い方ばかりで「この親にしてこの子あり」を感じる。心地よい雰囲気のまま自分の対局が近づく。

### ♪自戦記 ～決勝 その1 生川君は強い～

“先に言い訳”ではないが12才小学6年相手では闘志が湧かない。年齢は私の子供より孫に近い。且つ先程まで親しく話していたばかりで当然だ。収録手順の説明とリハーサル直後にすぐ対局。集中力を高める時間を持たないまま対局に入る。集中出来ていないことは自覚していたが上手く修正出来なかった。

第5図

変化1図



♪自戦記 ～決勝 その2 終盤の構想～

第7図は考えどころ。先手からは△?▲6三角△3一金▲6二と△?▲5二と△?▲4二と△同金▲5一銀と自然な手の連続で寄せ形が完成する。最高で3手手を抜けるこの速度に対抗出来る構想が後手には必要だ。持駒に飛車はあるものの、自分のと金と馬が邪魔をして横からの攻めでは間に合わない。今の飛・馬の位置を逆に最大限生かす構想を思いつかなければ勝ち目は無い。

まず△3五桂で先手の態度を聞く。▲4八金引は自然な応手だが最善手か否かは微妙。金二枚が壁になったので、その金二枚に触らない寄せ手順を描く。先手陣の弱点は2七の地点だ。一方受けでは、将来先手が▲4四桂と質駒の金を取った後の局面を想像すると、後手の飛・馬は今の位置のままで飛車が横にずっと1筋まで利き、馬は4六・3五をカバーしている。それ故、2～4筋の玉頭の勢力は圧倒的に後手が厚い。そこで後手玉の安住の地を2四の地点と予定して構想を立てる。

第7図より△3五桂▲4八金引△9九と▲6三角△3一金▲4一銀△3三玉と進み第8図。

▲6二とと読んでいたので▲4一銀は意表。△同金で受かることを局後戸辺六段に教えて頂いたが、指している時は「受かりそうだな」とは思ったものの▲同角成△同玉▲2二金の挟撃が怖過ぎて、相手に一発好手があれば終りの局面は1分将棋では指しきれなかった。構想通り上部に逃げる。

第8図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	皇					銀	零	桂	皇	▲
						銀				▲
	歩		と	角	歩	歩	王	歩		▲
						零	歩		歩	▲
三				歩	歩		桂			▲
歩							歩	歩		▲
							歩	歩		▲
				玉		金	銀	玉		▲
							金	桂	香	▲

第9図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	皇					銀	零	桂	皇	▲
					馬	銀				▲
	歩		と		歩			歩		▲
						歩	歩	王	歩	▲
四						歩	歩	桂	皇	▲
歩										▲
								歩	歩	▲
								歩	歩	▲
				玉		金	銀	玉		▲
							金	桂	香	▲

第8図より▲4四桂△同歩▲4三歩△同銀▲5二銀打△同銀▲同角成△2五香▲4二銀△2四玉で第9図。

第9図はこちらが描いていた構想が全て実現した後手の理想局面。先手玉は詰めろで適当な受けがなく、後手玉は安泰。勝ちを意識した。先手は5二に角を成る形で寄せの構想を描いたのが敗着と思う。たぶん▲4二銀(△同金と取れば即詰み)に期待し過ぎたのだと思う。角は6三に居て2七をカバーし続けながら寄せる形を探る必要があった。

第9図で▲1七金と粘られ、△1六飛の正着を逸した(見えてはいたのだが…苦笑)ため、長引かせてしまったがそのまま押し切った。手順は省略する。

本局は第7図での長考が自分にとって印象的だ。結果オーライを踏まえての発言だが、後手としては正しい構想を描けたのではないかと自負している。

この歳で(スモールだが)2つ目の全国タイトルを取れたのは望外。予想もしていず、全国大会の代表回数を増やすことを目標にしていたというのが本音。

(私は神を信じていないが)平成最強戦優勝時と同じく“将棋の神様の贈り物”と感じた。本当にありがとうございます!感謝しています。

<後書き : 2014.09.12. 関連情報を追記>

生川君は上記敗戦の後、アマ銀河戦 BEST 4 の方と共に 2011 年アマ王将戦全国大会に出場。そごての組合せ抽選でまた、私と同じ予選リーグの組を引いた。

その組は、秋山太郎 (\*1)、生川康太朗、高橋淳 (\*2)、辻清治と生川・辻には厳しい組。しかし彼は秋山戦○、辻戦×、千葉成人 (隣の組の 1-1 者。元奨励会二段) 戦○で予選突破 (余計な情報だが、私も高橋戦○、生川戦○で突破)。

小学 6 年生でのこの活躍は並ではない。中学 3 年生となった今年は、中学生名人、アマ竜王戦三重県代表他の活躍。私の彼との対戦成績は 3 連勝後 1 敗だが、これ以降彼の票田だけが開き、私の白星はもうない可能性が高い (苦笑)。

私と同じ地元 (兵庫県三田市) の長森優作君 (現在甲南高校 3 年生、高校 5~6 冠?) と共に、アマ棋界での彼らの今後の大活躍を予感・期待している。

私の眼が正しいか否か、彼らの今後に注目して頂ければ嬉しい。

\*1 : 私見では、鈴木純一さんや今泉健司さんと並んで自分とは将棋のレベルが 1~2 段階違うと感じさせられる元奨励会三段。話をしても社会人として間違いなく仕事出来るだろうとの基礎能力の高さと人柄の良さを感じる。

\*2 : 奈良県出身、東大寺学園~東大の元学生名人、私は彼の高校時代に 1 局指し、その時は負けたがほぼ互角と感じた。その後、NEC 対東大の日本選手権で当りまた私の敗戦。彼の方が強いと認めざるを得ないが、アマ王将戦では終盤の入口で彼に判断ミスがあり私に女神が微笑んだ。